

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

# 不退転の決意をもって、三月決戦ストに突入する

## 闘争宣言

本日、国鉄千葉動力車労働組合は千葉県労働者福祉センターにおいて第五回臨時大会を開催し、三月二日から政府・国鉄当局が強行せんとする三里塚空港ジェット燃料貨車輸送延長策動を阻止する三月決戦ストライキ方針を満場一致決定した。

われわれは、すぐる三年前、すなわち一九七七年十二月二日、三里塚芝山連合空港反対同盟との労農連帯をかねてジェット燃料貨車輸送阻止闘争に決起したあの局前総決起集会の熱気と感動を再び呼び覚まし、闘魂を湧かすはいつとして湧き起こしている。

われわれは、三年前「ハンドルを握りしめ、鉄路を武器にたたかう」路線をうちたて、数波にわたるストライキをもって、政府・空港公団・国鉄当局が願望した「燃料安定輸送」を常に脅かしてきた。この労農連帯を基軸に据えた労働組合としてのたたかいの蓄積と成果こそが、こんにち閣議決定を反古にしてまで理不尽にも燃料輸送延長に固執する政府、空港公団、国鉄当局を追いつめ、文字どおり三月決戦たらしめたと確信する。それゆえに政府、国鉄当局は、三月決戦ストライキの一点のイスクラがもつ階級的意義を敏感にかぎとり、三月を前にして、わが勤労千葉のたたかいを圧殺すべく、ありとあらゆる反動的攻撃をかけてきた。

それは、中野書記長への解雇攻撃を始めとして、「五五・一〇ダイ改」攻撃、「乗務員運用合理化」攻撃、四・一五、八〇春闘破壊をねらった勤労「本部」革マル反動分子による津田沼襲撃を口実とした布施組織部長への解雇攻撃。しかも、この諸攻撃と軌を一にした 勤労「本部」革マル反動分子による様々な勤労千葉組織破壊攻撃等々である。しかし、われわれは、この密集せる反動をことごとく粉碎し、組織を強化し団結を保持しぬいてきた。それは、三月決戦ストライキに組織の命運をかけるという一点に集約するものとしてかちとってきた偉大な勝利の成果であると確信する。

われわれは、いま三月決戦ストライキ圧殺のための政府・国鉄当局・勤労「本部」革マル反動分子が一体となつた断末魔・最期があがきともいえるスト破り助役機関士導入阻止闘争の真只中にある。この助役機関士導入にかけた敵の攻撃の質は、国鉄史上類例のない超反動的、「超法規的」なものである。それはあらゆる挑発攻撃をふりかざし三月決戦ストライキ圧殺を狙い凶暴化している。だが、われわれの闘魂と熱気、整然たる組織的反撃の闘いは、確実に国家権力・国鉄当局を凌駕し、スト破り助役機関士線見を受け入れるという歴史的裏切りを行つた勤労「本部」革マル反動分子を追いつめ、一步一步勝利の前進をうちかためている。

かくして三月決戦ストライキの機は熟した。われわれは、勤労「本部」革マル反動分子との二年間におよぶ組織闘争でうち鍛えた全組織力を発揮してたたかうときがきた。そしてなによりもわれわれは、勤労千葉一三〇〇名組合員の階級的矜持と労農連帯をかけて決起する。

このたたかいは、八一年―八三年過程の鈴木反動内閣が進める軍事大国化、改憲攻撃を粉碎するたたかいであり、三里塚二期工事阻止闘争の突破口をきりひらくたたかいであり、日本労働運動の右傾化―産業報国会化の流れをおしとどめ、戦闘的転換をかちとり、勤労大改革を実現する重大なたたかいであると確信する。

全国の労農学人民のみなさん。われわれの意気はいまや天をも衝き岩をも砕く勢いである。われわれと共に闘い、共に前進しよう。

われわれは、文字どおり不退転の決意をもって三月決戦ストライキのたたかいに敢然として突入することを宣言する。

一九八一年 二月二十三日 才五回勤労千葉臨時大会

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！